NO.3 横手市農業振興センターだより 令和５年５月10日

# 稲作情報

ＪＡ秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23－6556
各営農センター
金 沢 ☎ 37－2124　大 雄 ☎ 52－3665　横 手 ☎ 32－8220　増 田 ☎ 45－2035
平 鹿 ☎ 24－3110　十文字 ☎ 44－3101　大 森 ☎ 26－4155　雄物川 ☎ 22－2266
秋田県農業共済組合横手市支所 ☎ 32－4150
農産課（農作・畑作・損防） ☎ 32－4404　家畜果樹園芸課（家畜・果樹・園芸） ☎ 32－4407
建物農機具課（建物・農機具） ☎ 32－4119　収入保険課（収入保険） ☎ 32－4229
秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32－1805
横手市農林部 農業振興課 ☎ 32-2112・32－2113

ふるさと稲作ほっと LINE QRコード 友だち登録お願いします!

## ゆとりを持って、計画的な田植え作業を!!
## ＝ 保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保 ＝

いよいよ本田作業に入ります。ゆとりを持って計画的な田植え作業と保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保に努めましょう。

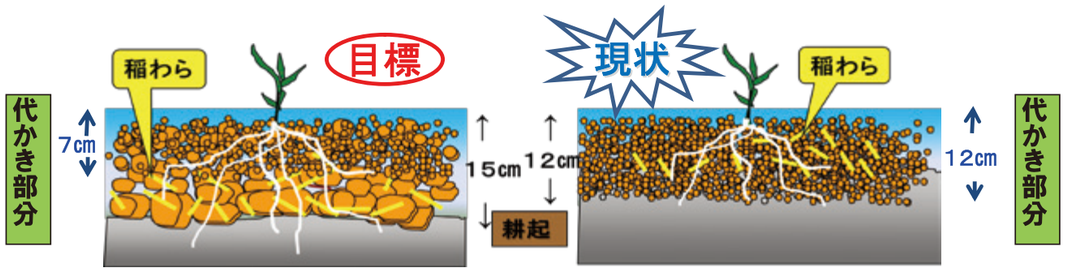
## １．代かき作業

代かき作業は、田植えの前に耕起した水田に水を入れて行う砕土均平作業です。できるだけ浅水状態にして作業を行い、田面に高低差が生じないように行いましょう。

＊水量が多すぎる場合、圃場の均平がわかりにくいため作業がうまくいきません。また、わら・稲株等のすき込みが難しくなります。

＊鏡のような過度の代かきは作土全体が泥状になり、土壌還元の促進や表層剥離の原因となります。作土の下部は軽く土塊が残るくらいに仕上げましょう。

**◆根を深く張らせる環境づくり**




目標→耕起は耕深を確保し整地代かきは深くしない　　現状→浅く耕起し深く代かきしてしまっている

## ２．田植え・栽植密度

**安定した収量・品質を得るには、目標茎数を早期に確保することが大切です。**

近年管内の栽植密度は、全体的に“疎植“の傾向にあります。「あきたこまち」は穂数型の品種です。「疎植」にしてしまうと、穂数を確保できず収量低下の要因となります。安定した収量を確保するためには**70株／坪の栽植密度が理想**です。高地力田や側条施肥等で初期生育を確保しやすい圃場は、50～60株／坪でも対応できますが、萌えみのり等の晩性品種は50株では登熟が遅れるため、しっかり実らせるために60～70株をお勧めします。

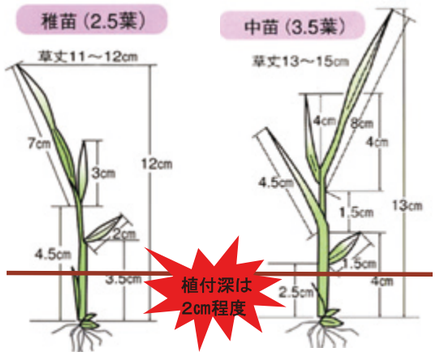
＊低温・強風の日に田植えを行うと植え傷みを起こし、活着や初期生育の遅れにつながります。

＊**田植えは最高気温20℃前後の温暖な日**に行ない、15℃以下の肌寒い日や強風の日は避けて、天気の回復を待ちましょう。

（図：食味ランクアップマニュアルより引用）

＊田植え後の圃場を見ると、株当たり植え込み本数が多い傾向が見られます。植え込み本数が多いと初期分げつが抑制されますので、**植え込み本数中苗で平均３～４本／株、稚苗で平均４～５本／株**となるよう調整しましょう。
（田植え作業スタート時に実際に植え込まれた本数を確認しましょう。）

＊植え付け深さは、活着・分げつに影響します。極端な浅植えは浮き苗や除草剤の薬害が起きやすく、また深植えは分げつを抑制しますので、**植え付け深さは２cm程度**としましょう。**（３cm以上の深植えにならないように！）**




| 植込株数/坪<br>株/㎡<br>株間（cm） | | 50株/坪<br>15.2株/㎡<br>21cm | 60株/坪<br>18.2株/㎡<br>18cm | 70株/坪<br>21.2株/㎡<br>15cm |
|---|---|---|---|---|
| ①目標穂数：380～440本/㎡<br>必要1株穂数 | | 25～30本/株 | 21～25本/株 | 18～21本/株 |
| ②目標総籾数：28～31千粒/㎡<br>籾数確保の難易度 | | 難<br>穂数不足 | ← | → 易<br>穂数確保 |
| ③株数を多くすると大粒傾向<br>千粒重確保の難易度 | | やや難<br>1穂籾数多すぎ | ← | → 易<br>適正籾数確保 |
| ④基肥窒素量<br>（kg/10a）<br>穂数確保の難易度 | 基肥N-5 | 難<br>穂数不足 | ← | → 易<br>穂数確保 |
| | 基肥N-7 | 易 | ← | → 易<br>倒伏注意 |

**栽植密度 70 株/坪が穂数・籾数確保が楽で、大粒傾向にしやすい**

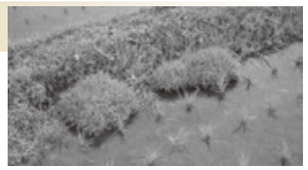
## ３．田植え後本田水管理

苗の生育状態や気象条件を考慮し、最適な水管理を行いましょう。

＊**活着するまで水深４～５cm程度の水深（苗がくぐらない程度の湛水）**を保ち（保温的水管理）、発根・活着を促進します。

＊活着を確認したら分げつを促進するため、２～３cm程度の浅水管理として水温と地温を高め、日気温較差を大きくします。このため、できるだけかん水は水温の低い早朝に行いましょう。また、水の冷たいところでは、温水チューブを利用して水温の上昇に努めましょう。

## ４．苗いもち対策


「葉いもちの発生源」

水田に**放置された補植苗は葉いもちの伝染源**となります。

いもち病は予防が鉄則ですので、補植は田植え後早めに行い、畦畔・本田等へ放置せず直ちに埋没処分しましょう。

**◆ カメムシ対策 ◆**

雑草地は、カメムシ類の生息地と繁殖地になります。管内の主要となっているアカスジカスミカメは卵で越冬し、６月上旬頃からふ化しはじめることから、ふ化前に草刈りを実施することで発生密度を低下させることが可能です。**畦畔・農道や転作圃場では、５月頃から計画的に草刈りや耕耘・除草剤散布等の雑草対策を徹底し、カメムシの密度抑制に努めましょう!!**非選択性除草剤散布の際は、水稲や周辺作物に飛散しないよう注意してください。

**☆『高品質・良食味米生産 平均反収570kg以上確保』『ふるさとecoらいす認定率100%』『1等米比率100%』に向けて栽培基本技術の励行を!☆**

## 5．いもち病・初期害虫防除薬剤

近年、１箱当たりの薬剤の量を減らして「いもち病」の発生するケースが多くなっています。**安定した効果・持続が得られるよう登録の散布量を使用方法を確認し、均一散布**に努めましょう。

| 薬　剤　名 | 対象病害虫名 | 散布量 | 使用時期 | 使用回数 | 成分数 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ｄｒ．オリゼ箱粒剤 | いもち病 | 50ｇ／箱 | 緑化期～移植当日 | １回 | 1 |
| パディート箱粒剤 | イネミズゾウムシ<br>ドロオイムシ・イネアオムシ・<br>イナゴ類 | 50ｇ／箱 | 播種（覆土前）～移植当日 | １回 | 1 |
| デジタルミネクト箱粒剤 | 葉いもち～穂いもち<br>初期害虫・イナゴ類 | 50ｇ／箱 | 移植３日前～移植当日 | １回 | 2 |
| ルーチンパンチ箱粒剤<br>（特別栽培米使用可） | いもち病・イネミズゾウムシ<br>ドロオイムシ・イネアオムシ・<br>イナゴ類 | 50ｇ／箱 | 播種（覆土前）～移植当日 | １回 | 2 |
| Ｄｒ．オリゼパディート粒剤 | | 50ｇ／箱 | 緑化期～移植当日 | １回 | 2 |
| デジタルメガフレア箱粒剤 | 葉いもち～穂いもち<br>初期害虫・カメムシ類 | 50ｇ／箱 | 移植３日前～移植当日 | １回 | 2 |
| ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤 | いもち病・イネミズゾウムシ<br>ドロオイムシ・イネアオムシ・<br>紋枯病 | 50ｇ／箱 | 移植２日前～移植当日 | １回 | 3 |

## 6．雑草防除

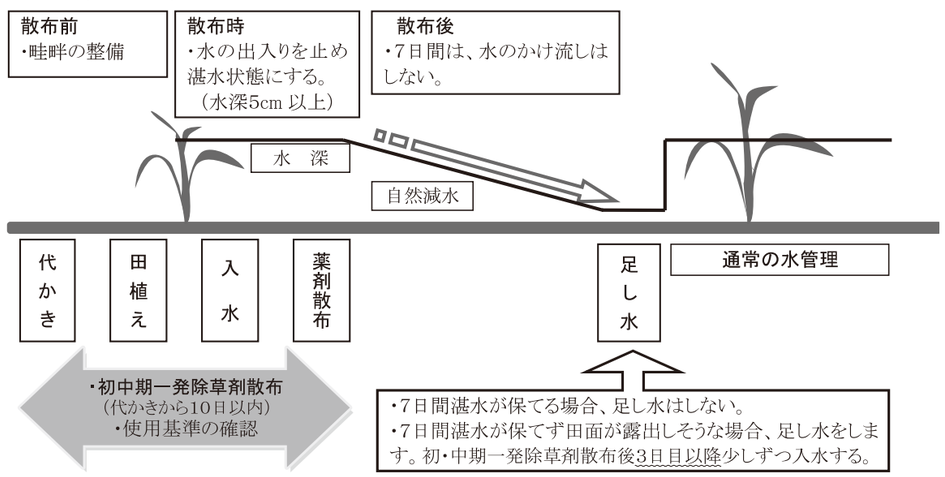
初・中期一発除草剤の効果を高めるためには、圃場の水持ちはもちろん**散布時期や散布後の水管理**も重要となります。

雑草の生育は一定条件では代かき終了後から発芽が始まり、10日後にはノビエ２葉、12日後にはホタルイ２葉になります。従って代かきから田植えまでの日数が長くならないように計画的に田植えを行う必要があります。また、**田植えが１週間以上かかる場合は、田植えが終了した圃場の初・中期一発除草剤散布を進めながら代かき、田植え作業を実施しましょう。**

＊粒剤は均一散布を心がけ、散布ムラや重複散布がないようにしましょう。

＊カナ・表層剥離・藻類の発生は除草剤の拡散を妨げますので、発生前に散布しましょう。

### ★ 除草剤散布と水管理のポイント ★




初・中期一発除草剤の散布に当たっては、水深５㎝以上の湛水状態で散布し、除草剤の処理層が形成される３日間は田面を露出させないことが基本です。**除草剤の残効を長く保つためには、水を切らさず湛水管理を継続する**ことが重要です。田面の露出した場所は除草剤の処理層が壊れ、残草のリスクが高まります。

**◆主な水稲初期及び初・中期一発除草剤**（「ふるさとecoらいす」は、**初期剤は田植前に使用できません。**）

| 区分 | | 除　草　剤　名 | 散布量・薬量（10ａ） | 使用時期 | ノビエ効　果 | 使用ポイント | 直播登録 | 成分数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 初期剤 | | ソルネット粒剤 | 1kg | 移植時～ | 1.0葉 | 初中期一発剤と体系処理<br>※田植え前の使用はecoらいす対象外（粒剤の田植え同時処理は可。） | | 1 |
| | | エリジャンジャンボ・乳剤 | 300g/300ml | 移植直後～ | 1.0葉 | | | 1 |
| | | ※前作と品種が異なる場合は必ず使用（漏生苗対策） | | | | | | |
| | | メテオ粒剤 | 1kg | 移植時～ | 1.0葉 | | | 1 |
| | | ピラクロン粒剤 | 1kg | 移植時～ | 1.5葉 | | ○ | 1 |
| 初中期一発剤 | 豆つぶ | ガンガン豆つぶ250 | 250ｇ | 移植後３日～ | 2.5葉 | | ○ | 2 |
| | 豆つぶ | アカツキ豆つぶ250 | 250ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | 特別栽培米使用可 | ○ | 3 |
| | 粒剤 | ゼータプラス粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.5葉 | | ○ | 2 |
| | 粒剤 | ガツントＺ粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.0葉 | | ○ | 2 |
| | 粒剤 | ガンガン粒剤 | 1kg | 移植直後～ | 2.5葉 | | ○ | 2 |
| | 粒剤 | カイリキＺ粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | 粒剤 | シグナス粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | 粒剤 | ゼータタイガー粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | 粒剤 | アッパレＺ粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | 粒剤 | アカツキ粒剤 | 1kg | 移植時～ | 3.0葉 | 特別栽培米使用可 | ○ | 3 |
| | ジャンボ | ゼータプラスジャンボ | 200ｇ | 移植後３日～ | 3.5葉 | | ○ | 2 |
| | ジャンボ | ガツントＺジャンボ | 250ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 2 |
| | ジャンボ | ガンガンジャンボ | 250ｇ | 移植後３日～ | 2.5葉 | | ○ | 2 |
| | ジャンボ | カイリキＺジャンボ | 300ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | ジャンボ | ベンケイジャンボ | 250ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | ジャンボ | ゼータタイガージャンボ | 300ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | ジャンボ | アッパレＺジャンボ | 400ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | ジャンボ | アカツキジャンボ | 250ｇ | 移植後３日～ | 3.0葉 | 特別栽培米使用可 | ○ | 3 |
| | フロアブル | キマリテフロアブル | 500ml | 移植直後～ | 3.0葉 | | ○ | 2 |
| | フロアブル | ガツントＺフロアブル | 500ml | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 2 |
| | フロアブル | カイリキＺフロアブル | 500ml | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | フロアブル | アッパレＺフロアブル | 500ml | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | フロアブル | ゼータタイガーフロアブル | 500ml | 移植後３日～ | 3.0葉 | | ○ | 3 |
| | フロアブル | アカツキフロアブル | 500ml | 移植後３日～ | 3.0葉 | 特別栽培米使用可 | ○ | 3 |

### ふるさとecoらいす及び特別栽培米取組表示札の設置をお願いします！

令和５年産米の作付けに向かい着々と準備が進んでいるかと思います。

ふるさとｅｃｏらいすの取り組みもおかげさまで10年目を迎えました。６月中を目途に「ふるさとｅｃｏらいす取組表示札及び特別栽培米取組表示札」設置状況確認巡回を実施致します。田植え後速やかに圃場へ表示札を設置下さるようお願いいたします。